



Nicosia FIR の ATC 問題点 (キプロス紛争の余波)

1. キプロス紛争

1960年にそれまでの英国の植民地支配から独立したキプロスは、以後、多数派を占めるギリシャ系住民と少数派のトルコ系住民との間で激しい対立が繰り返されました。そして、1974年ギリシャ併合派のクーデターの際、トルコ系住民の保護を理由にトルコ軍がキプロス北部約3分の1を占領しました。1983年「北キプロス・トルコ共和国」(以下北キプロス)として、キプロスからの一方的独立を宣言しました。このため、キプロス島北部地域にはキプロス共和国の実効的な支配権が及んでいない状態が今なお続いています。

2. 北キプロス側の空域設定

1977年には、Ankara FIR 南西部の一部と Nicosia FIR 北側の約3分の1を Ercan Advisory Area という空域であるとし、Ercan Control という航空管制業務まがいのことを始めました。しかし ICAO はこの空域変更を一切認めず、FIR の変更は行われませんでした。IFR 機が安全に飛ぶためには、フライトプランの伝達、管制移管の連絡など FIR 間で密に連絡を取る必要がありますが、Ankara FIR、Ercan Advisory Area、Nicosia FIR の間には、現在に至るも全く連絡が取られていません。このためパイロット側に補足的対応が求められていますが、正しく実行されないことが多いと言えます。それゆえ、フライトプランが伝わらない、正当な管制指示からの逸脱などの ATC トラブルは毎年多い状態が続いており、2006年824件、2009年には948件などと漸増の傾向にあります。

3. IFALPA の推奨する方策

IFALPA の推奨する方策全体については日乗連ホームページの IFALPA Safety Bulletin 2010年8月16日発行の ATC deviation issues in the Nicosia FIR をご覧いただくとして、主要部分を列記します。

a) 南行きの基本方策

Ankara FIR 内においては常に Ankara Control よりの管制指示に従ってください。これは Ercan Control 126.7 Mhz による Ankara Control の管制指示伝達を含みます。Nicosia FIR に向かう飛行機は FIR 境界の10分前までに Nicosia Control に通信設定を行い、必要事項を伝えます。その後 FIR 境界までは基本的には Flight Level の変更を行わないこととし、必要があつて FL を変更した場合は、Nicosia Control にも速やかに通報することが求められています。

(裏面へ続く)



b) 南行きで FIR 境界を通過すると

南行きで FIR 境界を通過しても Nicosia に通信移管の指示は来ません。パイロットは FIR 通過を確認すれば直ちに Nicosia に通信設定を行い、Nicosia ACC よりの管制指示のみに従ってください。Ercan Control に通信移管を求める要請が入っても、「その通信は受信した。しかし Nicosia の指示に従う」と丁重に断ってください。

c) 南行きで Nicosia FIR より Damascus FIR に向かう場合

Nicosia FIR に入って Nicosia ACC に位置通報を行い、続いて Damascus ACC にも定められた通信を行ってください。そのうち Ercan Control にも関係事項を通報してください。もともと、これは儀礼的なものであり、Ercan Control の発する管制指示はすべて無視してください。

d) 北行きの基本方策

前記のように Nicosia ACC と Ankara ACC の間には連絡はありません。北行き飛行機は、FIR 境界の 10 分前までに Ercan Control 126.7 MHz に通信設定を行い、Ankara ACC への飛行情報伝達を依頼してください。しかし FIR 境界までは航空管制の権限は Nicosia にあります。

4. この空域では更に複雑な手順が予定されている

添付の図でお分かりのように Nicosia FIR の南東側は Beirut FIR と Tel Aviv FIR というデリケートな空域に接しています。特に Tel Aviv FIR に入る便については、イスラエル海岸線より 180 nm でパイロット（機長）個人のセキュリティー確認を求められようとしています。イスラエルに飛ぶ便の大部分は北側から入りますので、Ercan Advisory Area で複雑になっている空域で、もう 1 つパイロットの手順が増えることになります。この件については別のニュースを発行しますのでご参照ください。

(注) キプロスを中心とする関係空域図は次号に掲載します。

(以上)